



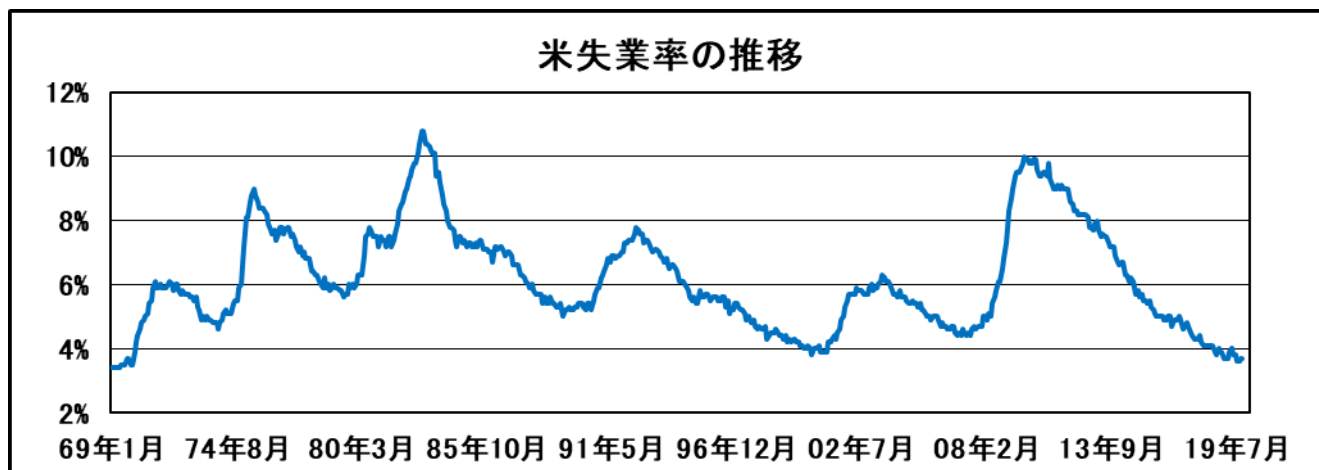
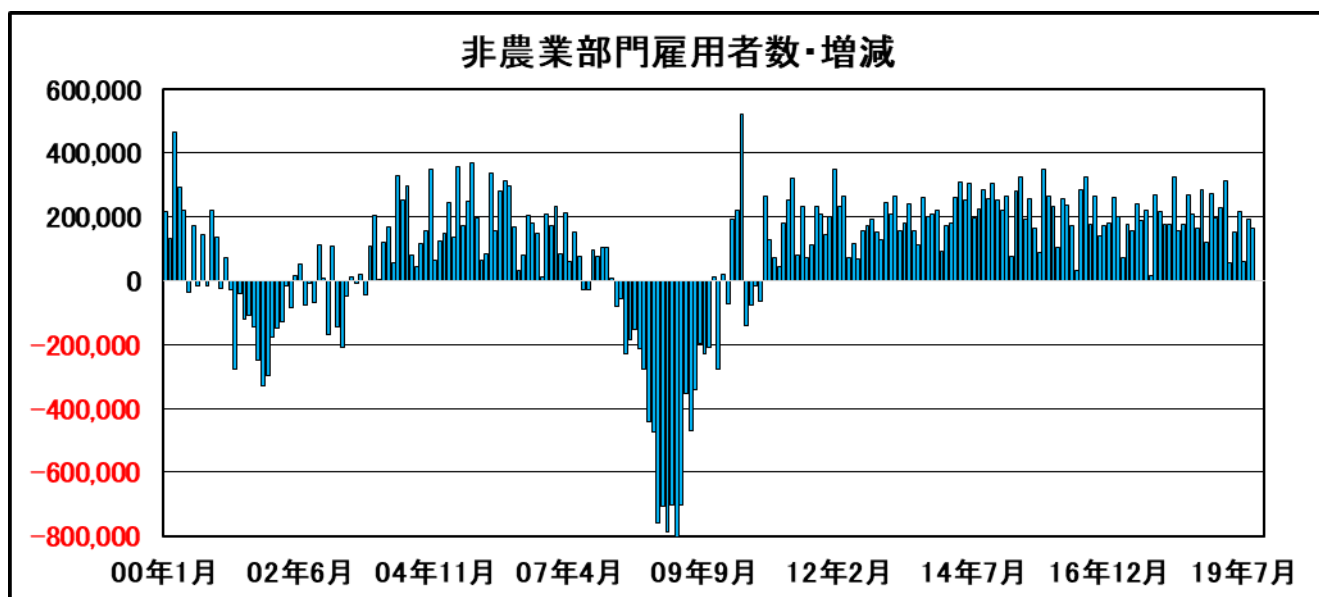
7月の米雇用統計、雇用拡大ペースに鈍化の兆し

◆非農業部門就業者数：前月から伸びが鈍化

米労働省が8月2日発表した7月の雇用統計によると、景気動向を示す非農業部門就業者数は季節調整済みで前月比16万4000人増加と前月から鈍化し3カ月連続で好調の目安とされる20万人を下回った。前月は22万4000人増加から19万3000人増加に下方修正され、雇用拡大ペースに鈍化の兆しが出ている可能性がある。失業率は3.7%と横ばい。市場予想は、就業者数が16万4000人増、失業率は3.7%。

業種別の就業者数は、物品生産が1万5000人増、建設が4000人増といずれも伸びが鈍化した。前月に減少した自動車・部品はプラスに転じた。サービスは13万3000人増。小売りは6カ月連続で減少した。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は7月31日の米連邦公開市場委員会（FOMC）後の会見で、「利下げ局面の始まりではない」と述べ、限定的な緩和にとどまるとの見方を示した。ただ、トランプ大統領は9月1日に中国からの輸入品に制裁関税「第4弾」を課す意向を表明。景気は底堅いものの、雇用に伸び悩みの兆しにもじんでいることで、市場では追加利下げは避けられないとの観測が強まりそうだ。

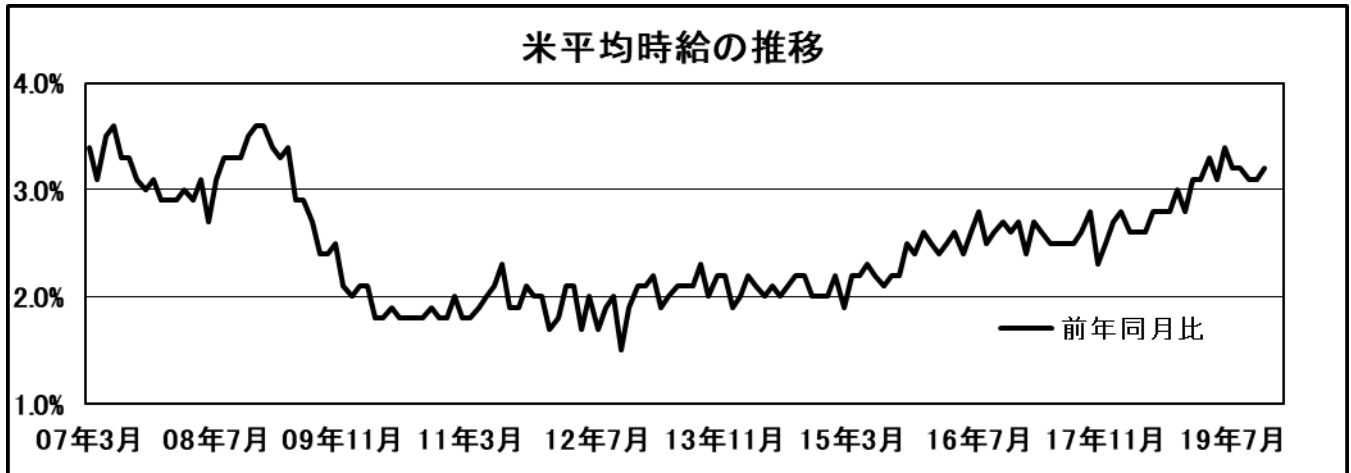


第一商品株式会社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町9番1号 神泉プレイスビル フューチャーズ・24

このレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので投資勧誘を意図するものではありません。投資の最終的な決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い致します。レポートに記載の内容等は作成時点のものであり、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく修正、変更されることがあります。商品先物取引業者 日本商品先物取引協会会員
当社お客様相談窓口 0120-770-266（平日 8:30～17:00） 日本商品先物取引協会相談センター03-3664-6243。

◆平均時給：市場予想を上回る

物価上昇の先行指標として注目される平均時給は、前月比で0.3%上昇、前年同月比で3.2%上昇と、市場予想（前月比0.2%上昇、前年同月比3.1%上昇）を上回った。ただ、前年同月比の伸び率は10年ぶりの高水準だった18年末と比べて鈍化している。



◆NY金、3営業日ぶりに反発

週末8月2日のニューヨーク商品取引所（COMEX）の金相場は、米中貿易摩擦の激化懸念が強まる中、安全資産としての買いを集め、3営業日ぶりに反発。中心限月期近12月限の清算値（終値）は、前日比25.10ドル（1.75%）高の1457.50ドル。

トランプ米大統領は1日、中国からの輸入品ほぼすべてに制裁関税を拡大する「第4弾」を9月1日に発動するとツイート。これを受け、中国外務省報道官は2日、対抗措置を講じなければならないと表明し、両国の「貿易戦争」激化が世界経済に及ぼす影響を警戒し、投資家がリスク回避姿勢を強め、資金の逃避先として安全資産とされる金を買われ急伸。アジア時間帯での取引で一時、1461.90ドルと、中心限月の継続機足で7月19日に付けた年初来高値1454.40ドルを突破し、2013年5月19日（1476ドル）以来、約6年3カ月ぶりの高値を付けた。

米国時間に入ると、7月の米雇用統計が発表された直後、外国為替市場でドルがユーロに対して一時反転上昇し、ドル建てで取引される金は割高感に押されて値を削る場面があった。ただ、7月の米雇用統計で景気動向を示す非農業部門就業者数が前月比16万4000人増と好調の目安とされる20万人を3カ月連続で下回ったうえ、前月分の就業者数の増加幅が下方修正されたため、「米景気に減速の兆しが見え始めた」との見方が広がり、米株安・ドル安となったことから、再び上値を追う展開となり、一時はアジア時間帯に付けた年初来高値に迫る場面もあった。

